

山行報告

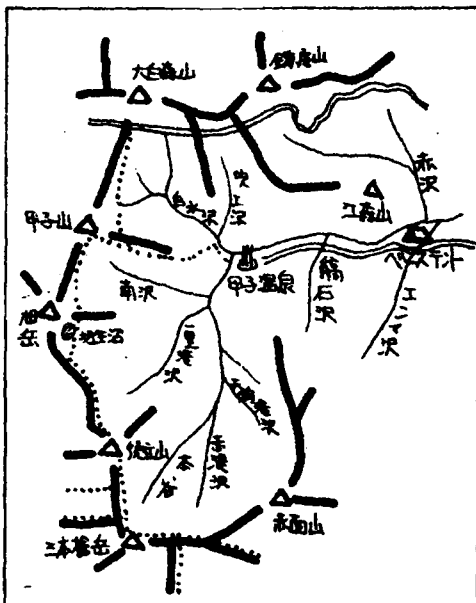
1983年夏合宿

阿武隈川源流域一斉遊行

1983年7月22-24日

L

1983年の夏合宿は、阿武隈川源流域の一斉遊行として実施した。参加者は12名。2日間で11本の沢を遊行した。この地域の沢については、我々はすでに何本かの遊



行経験をもち、それらは会報のNo 6(白水沢、一里滝沢、南沢)、No 8(本谷、赤滝沢)などに記録として公表してきた。ここに紹介する分と合せると、この地域の主要な沢はほぼ網羅したことになる。参考にさせていただきたい。

赤沢左俣

1983年7月24日

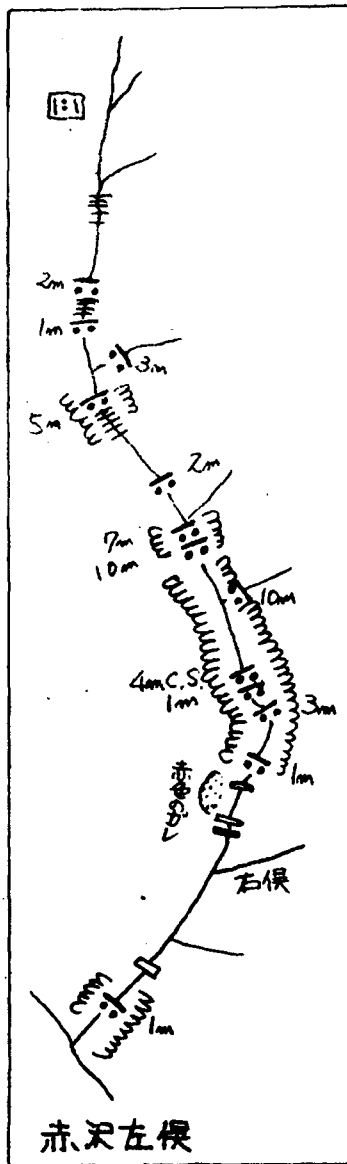
L

6:15遊行開始。出合から暗い廊下状となり、大きな滝がありそうな雰囲気である。ところが、いざ踏み入ってみると、1m程

の小滝があるのみで、2つめの砂防ダムを越えたあたりから明るい沢となってしまった。砂防ダムを越え、左岸が鉄分の多い赤い土のガレ場となっている所を過ぎると、再びゴルジュとなる。期待をしながら進むが、小滝が続くのみ。

小休止した所に、ホトトギスという黄色に黒い斑点のある花が咲いていた。花を見ると、不思議と心がなごむ。

支沢が合流した先でようやく目の前にあらわれました三段滝。20m程の落差はあ



赤沢左俣

ろうか。一段目は気持よくシャワークライミングする。二段目、三段目とも快適に登れる。あとはナメや小滝が続いて、8時50分二俣となる。

右に進んで10分程歩いた所で沢からあがり、右にやぶをこいで10分程で車道に出る。(記・

[タイム] 出合(6:15)→二俣(6:35)→沢終了(9:00)→車道(9:10)

赤沢右俣(下降)

1983年7月24日

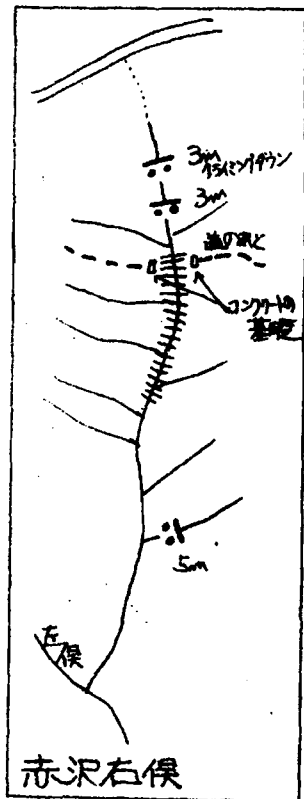
L

下降を始めたらすぐ小滝。慎重にクライミングダウンする。そのあともう1つの小滝を超える。まもなく道のあとが沢を横切っている所に出た。甲子峠に向けて、昔はたくさんの人や馬が通った道のようなが、今は通る人とてなく、荒れるにまかされている。

ここからしばらくは川床が岩盤となり、ナメが続いていて気持よく歩く。しかし、このあと全然滝もないままで、二俣に着いてしまった。2時間で下降終了。

(記・

[タイム] 下降開始(9:50)→終了(11:50)



赤沢右俣

エンマ沢

1983年7月24日

L

事前の予想では、長い時間かかるだろうということだったのだが、滝が少なかったことや、難しいルートがな